

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage 月刊ステージ・アップ up

'98
12

月号【1日発行】

◇お知らせ

'99年新春号の発行は1月8日(金)になります
来年も、ひきつづきご愛読をお願いします



いまを話す

「労働」と「心の空洞化」との関係を追求する哲学者
豊かさってなんなの？
失われた安心感ある社会 効率化の
価値観で
内山 節 さん

たおやかで豊潤な精神の再興

表紙絵を描き終えて 清水 幹子

秋霧にリンドウの花々が咲き乱れる山林に轟いたロシア民謡の美しい旋律の歌声は、鬱々たる「夏の闇」を一瞬にして吹き飛ばした。

この歌声は、切々とツツレコロオロギのうち震える哀愁を漂わせ、溢れんばかりの優しさに満ち満ちて、流浪の民の運命感愛の響きを奏でている。

内奥の魂を揺さぶり、精神を奮い立たせる肉声の律動は、どこから沸き起ってくるのだろうか。歌声は語りかけるように、ときには重奏の響きを放ち、多彩な情景のイメージを彷彿とさせてゆく。広大な大地、野鳥のさえずり、風にそよぐ海原を愛馬に乗って駆けめぐり、声高らかに歌い、語り、輪舞した耀いた至福の日と時。しかし今、霧の彼方に居るあなたの処には行けない。

風よ、東の間の光よ、わたしは歌いつづける。蒼空に無限の花を咲かしめて。

この歌声は、太古の時代を想起

させる。日本の太古まほろば縄文の時代には、たおやかで豊潤な精神、生命の躍動が漲っていた。十九世紀末ヨーロッパで開花した「芸術」、美術・音楽・演劇は、第二のルネッサンスといわれる文化を築いた。この時代に日本の美術、浮世絵、琳派、「北斎」、「光琳」の与えた影響と存在は非常に大きい。

二十世紀末は魍魎魍魎、渾沌の闇、殺伐たる砂漠化した人間の風景である。人間の傲慢さが自然界の生体系のリズムを破壊し、この闇に拍車をかけている。

わたくしたちが生きて、喜び、安らぐ安住の旅は、「人間の存在の風景」を探し希める旅でもあった。二十一世紀の座標軸はどのような人間の風景を醸しだしてゆくのだろうか。

いま、二十一世紀に向けて、何を発信してゆくのが問われている。

Stage Up 12 月号もくじ/1998年

■ほんねインタビュー いまを話す 4

労働と心の空洞化との関係を追求する哲学者

内山 節 さん

豊かさってなんなの？

効率化の価値観で失われた安心感ある社会

■はりきってます グループ紹介 10

母と子が楽しく集う

てくのぼう(麻生区)

小物、廃品を生き返らせる

岡上デコパージュ研究会(麻生区)

●学習・文化情報 12

□ミニニュース／編集後記 裏表紙

◇表紙絵……人間の四季 清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

お知らせ 1999年新春号(1、2月合併号)の発行日は

1月8日になります

市内で活動の文化団体に ホールを無料開放

(財)川崎市生涯学習振興事業団は、おもに川崎市内で活動する文化団体・グループに、新百合21ビルの「トゥエンティワンホール」(多目的、小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩2分)とその付帯設備を無料で開放・貸し出す支援をします。

ジャンルは、音楽、舞踊(ダンス)、演劇、映像などの文化・芸術です。

●貸し出し期間

来年2月と8月、各1団体

●申し込み

☎733-6626の当事業団学習事業室
(中原区今井南町514の1)

フレッシュアンサンブル かわさき in '99

～なかまと若き音楽家との共演～

来年**1月9日(土)**午後**2時**開演

麻生市民館大会議室 **入場無料**

《若き書家と音楽家との新鮮な出会い》お早めに入場され“心画”をご鑑賞ください

出演 瀬崎竜彦・書を超えた心画○丸山朋文・チェロ(東京芸術大)○澤菜穂子・ヴァイオリン(桐朋音大)○渡辺美奈・ピアノ(同)

曲目 メンデルスゾーン「ピアノ三重奏 作品49」マハイドン「チェロ協奏曲 二長調」ほか

●後援：川崎市、川崎市教委、当事業団

●問い合わせはTEL989-1338の丸山



1000人の市民による大合奏・大合唱

日時 **12月20日(日)**午後**4時**開演

会場 **市教育文化会館** (JR川崎駅下車)

入場料 **無料**

〈問い合わせ〉☎(933)8724の「ボレロを楽しむ会事務局」 後援：当事業団ほか

(財)川崎市生涯学習振興事業団支援事業

芸術村あすなる創立15周年特別公演

おんがくはなし **泣いた赤鬼**

12月23日(祝) 新百合トゥエンティワンホール

(小田急線新百合ヶ丘駅下車)

1回目/午後**1時30分**開演

2回目/午後**4時30分**開演

〈入場料〉

大人**3,000円**/子供**2,000円**

幼児**1,500円**

★問い合わせ ☎044(933)8724の芸術村あすなる

主催/芸術村あすなる 共催/市生涯学習振興事業団 後援/川崎市、市教委 ほか

いまを話す

ゲスト

「労働」と「心の空洞化」
との関係を追求する哲学者
内山 節 さん

Vol.70



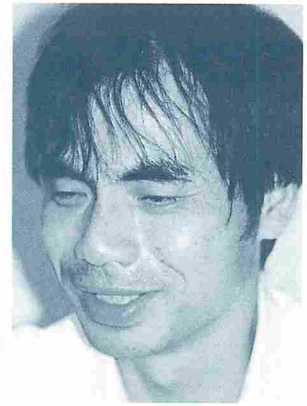
豊かさがいつてなんなの？

失われた安心感ある社会 効率化の
価値観で

モノがあふれ、モノに囲まれた生活を「豊かなくらし」と言うようだ。その一方で、モノで満たされない「虚しさ」が人々の心を蝕む。人間のモノや心の状況を表す言葉が「くらし」であるなら「豊かさ」が実感できない」のではなく「くらしの質が貧しい」との疑問が生じる。哲学者の内山節さん(48)は二十数年間、東京の自宅と群馬県上野村の自宅との二重生活。畑を耕し森の手入れをし、困ったとき助けてくれる人がいる村の生活は「不思議な安心感がある。いまの人間が失ったのはそうした意識ではないか」と話す。産業社会の「効率の追求」は、長い人間社会の歴史の中で特殊な考えだ。現代社会の病理「心の空洞化」を問う。聞き手は小誌・菅原純子。

——内山さんは、新しい思想の模索者としてもご活躍ですが、きょうは「人間にとって生きる・働くとは」を中心にお聴きします。先日、東京デイズニールランドに行った知人が「みんな、アトラクションを効率よく回るためのガイドブックを持って動き回っていた」と。たえず効率を考える日本人はどこからきているのでしょうか。内山さん 効率の追求は二〇世紀の産業社会の発想で、この社会は「時間価値の経済学」が支配しました。「効率性が価値あるもの」

と認定されたのは二〇世紀だけで、人類史からみると非常に特殊な考えです。教育、たとえば自動車教習所では、三十時間で卒業した人も六十時間かかった人も、免許を取得すれば平等です。一九世紀までの教育はこれでした。一つの学問をマスターすることに意義があつて、それにかかる時間は問題ではなかったのです。二〇世紀にそれが壊れ「ある時間内にマスターしないと価値がない」との考えに切り替わりました。今でも公教育からはずれて習字や絵をマスターするときは時間価値で動きません。公式の世界では「時間の使い過ぎは価値の減少につながる」ですが。——それは、一九世紀までは職人の時代だったからでしょうか。内山さん そうです。「ものづくり」に価値を見いだす社会で評価されるのは「でき」であり、いいものをつくる職人の「腕」です。時間がどれだけかかったかは、大して考慮されませんでした。——二〇世紀とそれ以前では、価値観がなぜこんなにも大きく変化したのでしょうか。内山さん 二〇世紀の産業社会の中で、作業の標準化が進み、優



れた腕がなくても、多少の訓練で、だれでも同じものが作れるようになりました。

——ハンバーガーショップのようにに熟練が必要でなくなったと。

内山さん ええ。労働の価値は「二時間で何個つくれるか」になります。「作業の標準化」と「ものの標準化」が定着し、一時間に十個作る人より百個作る人のほうが価値があることになりました。まずはじめに、産業界が時間の効率性に価値をもたせ、どの工場が、一定時間内に、どれだけたくさん作れるか」という価値基準をつくりました。職人の腕による「自分だけの製品」に誇りを持っていた時代とは、価値観が大きく変わったのです。それが、社会のさまざまなところの基準になって、時間の有効利用が社会全体の価値基準になったんです。

——そうでしたか。教育も時間内に問題が解けるかが価値基準。

内山さん 五十九分で問題をすべて解いた子供と、六十一分かからないと解けなかった子供に、合格、不合格という差が出るんです。不思議なことですが、その価値基準が社会の隅々までいきわたって、人生そのものが、時間をいかに有効利用するか、という「時間価値の経済学」で考え行動するようになりしました。そして、遊びに行っても効率を求めるような習性、国民性になったのだと思います。

——戦後五十三年、暮らしたは豊かになりましたが、文化は衰退したとの見方もありますが。

内山さん 文化というのは、人間がどれだけ無駄をするかによって生まれるものです。人類学をやっている僕の友だちが「日本の社会が効率主義を貫いた中で生まれた文化は、パチンコとカラオケだけ」と言っています。

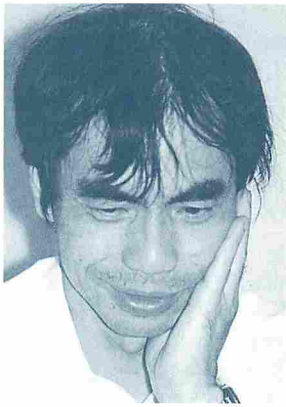
——内山さんのご自宅は東京の世田谷ですが、一カ月の半分近くを群馬県の上野村で過ごされているようですが、そのきっかけは。

内山さん 上野村で過ごしはじめて、あと数年で三十年になりました。

す。偶然通りかかった村だったんですが、そのとき「人が暮らす里ってこんなにきれいなのか」と感じました。昔からよく釣りに行き、まわりの自然が壊されていくのを見てきて「人が住むと景色を悪くする」という感覚があったのです。

——でも、初めて通った上野村は魅力的だった……。

内山さん 人が住んでいるがゆえに、美しい景色があるという感



じでした。村の九四%が森林なのですが、きれいに耕された畑の美しさ、山の傾斜地に石を積んで、なおかつ傾斜している畑。あるいは、その畑を囲むように草地があって、そのむこうが山になっている。そういうきれいな景色があって、夕方になると家々から立ち上る薪のけむりがたまらなく美しい。

——村の風景が目には浮かびます。内山さん 田舎の家も、大工さ

んが中心になって作るんですが、村の人達が必ず手伝うんです。屋根を葺き替えるときも近所の人が手伝っています。人々がいろいろな技をもっていて、時に自分だけで、時に共同で、また、そこに専門家も加わって仕上げていく。そういう建築美があるんです。

——内山さんは、そこで畑を耕していらっしゃるんですね。

内山さん まだ、村に家を持つ前ですが、きれいな川へよく釣りに出掛けました。そのころ、村の人に「畑を耕さないか」と誘われ、その後、顔見知りのおじいさんと

内山 節 さん

うちやま・たかし=1950年、東京生まれ。96年、97年の「かわさき市民アカデミー」人間学コース講師。著書に「自然と人間の哲学」(岩波書店)、「時間についての十二章」(同)、「子どもたちの時間」(同)、「自由論」(同)、「山里の釣りから」(同)、「森に通う道」(新潮社)、「貨幣の思想史」(同)、「戦後思想の旅」(有斐閣)、「往復書簡 思想としての多数」(竹内静子との共著) (農文協)など。世田谷区に在住。72年から群馬県上野村で畑を耕し村民と交流。96年、同村に家を持つ。

自然も人も「無事が何より」 自然と人間は「一つの世界」

薄れた二つの言葉への意識



道で会い「なぜ、農業がこんなに長く続いてきたと思うか」と聞かれました。僕は「食べ物ほだれかが作らなくてはならないから」と答えました。すると「自分が農作物をつくる理由はない」と言うのです。上野村は農業だけで生きてきた村ではなく、やめる機会は

いくらでもあるんです。正解は単純に「農業が面白いから」なんです。——実際に畑仕事をされて、面白いですか。内山さん 面白いんです。夏の草刈りは大変ですが。今年は日照不足とベト病の発生で作物が壊滅

的でした。農業を散布すれば、例年の七、八割の収穫になります。農業をまいて土を悪くするより、今年の収穫をあきらめたほうが、今後の土の力によいと判断しました。村全体が出荷を目的としない農業をしているので、長い目でみた農業をすることができるとです。——村の人が、都会人の内山さんに違和感をもったことはなかったのですか。

内山さん さあ。農業をするこ
とで村の人との距離がすごく縮まり、上野村に行く「村に戻った」と思いますし、僕自身が村人という意識になります。

——農村で暮らし、農民と交流して学ばれたことは。

内山さん 昔は「無事に暮らしております」とか「無事が何より」という表現をよく使いました。最近あまり使いませんね。現代人は、無事なだけでは満足できなくなっているのです。村では「無事」がとても大事です。人間が無事に暮らしていくには、村が無事がなくてはだめなんです。僕が住んでいる十軒ほどの集落では、みんなが協力しないと水も飲めなくなるんです。何が起きても、常に対応

可能な状態にしておかなくてはならないんです。

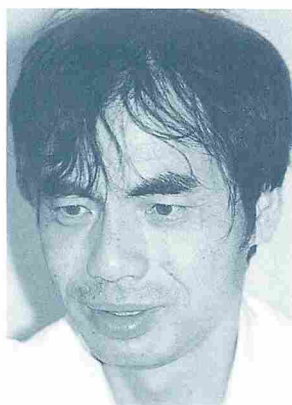
——たとえば……。

内山さん この木が山を崩さないための木なのか、山を崩す木なのか、そういう見極めはベテランの村人に頼みます。常日ごろ、協力しあっていないと自分だけの無事もないのです。しかも、村や集落が無事であり続けるためには、それを支えている周囲の山、川、という自然が無事でないとなが家の、村の無事も危ないのです。自然の無事と村の無事、わが家の無事、私の無事がひとつの世界です。そう感じてから、何を聞いても「無事はい言葉だな」と思うんです。

——お互いが支えあって、無事に生きているということですね。

内山さん 人間は生きていく過程である程度、自然の無事を壊すこともするんです。けれど、村の生活はその行為を自然が許してくれる範囲内かどうかです。自然の無事を目の前の出来事として付き合うわけです。無事を維持していくには、人間の側にいろいろな技術があるんです。農業を使わない農業は、農業を使う農業よりずっと難しく、自分の計画通りに事が

進まないことを意味します。また、村には虫がいっぱいいますが、それは自然が豊かにあるから、魚も



釣れると考えるんです。村の人は「むこうにもむこうの世界があった、その世界を自分(人間)の都合で壊したら、最終的には自分も困るし向こうも困る」という感覚なんですね。

——自然の都合を考えない生活が続けると、いつかは自分たちが困るといえるのは共生の思想ですね。

内山さん 一つの間に、人間の都合通りに物ごとが進むことが当然のように考え、それで人間が幸せになったのかといえなさうでもない。生きるうえで大切な自然をみる技術さえ失いました。

——「生の空洞化」が強まっているとのご指摘ですが、それを克服する手立てはあるのでしょうか。

内山さん 産業技術の技術では

なく「生きていく腕」をどこまで回復できるかの問題だと思います。

僕が畑をはじめて二十六、七年になります。ある程度の野菜が作れるようになり、道具を使いながら山の作業もできるようになり、困った時には助けしてくれる人達がいます。そうになると、不思議な安心感があるんです。何にも困らないという気分になるんです。「生きていくだけなら、この村にいれば何とかなる」という気分です。たぶん、今の人間が失ったのはそう

増える企業労働に疑問もつ若者

けれど、村の人は人付き合いの技術にたけています。都合の悪いことはこじらせない。うまくいっていることはそのままにしておくというように。これも今の人が失った技術です。

——新聞によりますと、四年制大学卒業生の一・五%にあたる八万二千人が、大学院へ進学もせず、就職も希望しない「無業者」ということです。労働観に変化が起きているこの数字になったのでしょうか。

内山さん この現象は、これか

した気持ち、意識ではないのかという気がします。安心感を維持できる人間関係や自然と人間との関係。腕の回復が大事です。

——小さな集落での生活。人付き合いが、うっとうしいことはありませんか。

内山さん バランスを崩すと、うっとうしいことになりますね。

「だが、どうして、どこに行ったら」というプライベートなことまで、みんな分かっってしまうんです。

らもっと広がると思います。戦後のある時期までは、就職することによって「腕」を身につけるといいう感覚がありました。今でも就職することによって、相対的に収入が多くなり生活が安定します。また、家購入のローンが組みやすい、初対面でも企業名入り名刺を出す

と信用されるなど金銭外的利益も結構あったと思います。

——就職への期待の中に、生きがいもあると思います。

内山さん ちょっと前までは、

身分的・金銭的保証は大丈夫でしたが、それが危うい。それに「企業の中で技術や腕を磨ける」メリットがほとんどなくなっています。「会社に入って、時間だけ拘束されている」と感じる若者が増えていきます。

——職人的労働は腕を磨けたが、いまの労働は、企業外へ出ると役に立たないと。

内山さん もっと根源の問題として「企業労働が人間にとってメリットがあるのか」で、これから深刻な問題として浮上するでしょう。学生たちは「いまの企業労働は、ある限られたものに過ぎない」と感じています。勤めるにしても永久ではなく「十年間だけ勤めてみようか」という感覚になると思います。そして、辞めた後のことを念頭に置きながら勤めることが、

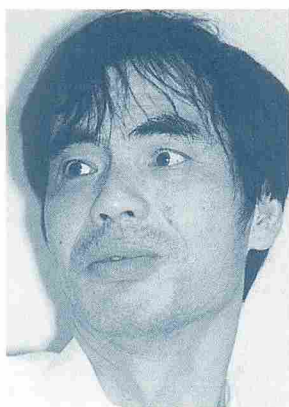


小誌・菅原純子

登校人「他者とかかわりたく ない」が理由なら深刻

全産業的に広がる気がします。

——これまでは「一にも二にも会社、会社で働き中毒。定年退職後は粗大ゴミ」といわれてきました。労働の質が問われはじめたと。



内山さん そうです。新しい思想の息吹のようなものを感じます。——昨年度、小・中学校を三十日以上休んだ不登校児童・生徒は前年度より一万一千人増え、初めて十万人をこえました。この現象をどうお考えになりますか。

内山さん さっぱりわかりません。——はあ？

内山さん 「勉強をする、学問

をする」ということは、イコール

「学校に行く」にはなりません。学校で教わる程度のことは、本人がどこかでやりたくなったら、できることです。いやいや学校に行く必要はまったくない。ただ「不登校の原因は何か」と考えることは大切です。「自分のやりたいことがあるので学校から離れる」のか「学校から逃げるだけ」なのか。

——不登校は、非難されることではない、ということですね。

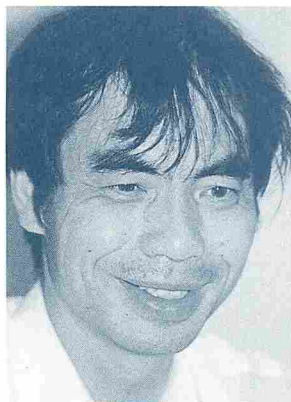
内山さん ええ。学校から逃れるうちに、何かが見つかることもあります。自分がどういう他者との付き合い合いなのか、関係を持ちたいのか。自然との関係、他の人々との関係、いろいろな関係があるんです。たとえば、ある大工の棟梁の技術を覚えたいと思えば、その棟梁との人間的、技術的な魅力ある関係がもてます。こういう関係が優先され、学校教育からリタイアするのは構わないと思います。

——バーチャル・リアリティにのめりこむ子供もいますか。

内山さん 関係の世界を持つこと、それ自体からリタイアすることとは不幸なことで、現代社会がつくった人間の矛盾を極限まで持つていくだけです。現代社会の問題、たとえば、いい親子関係を持ちたいという欲望にしても、親と子の関係がまずあって成り立つものです。どのような欲望も、実際は他者との関係がなければ満たされなはずで、自己完結可能な欲望だけが残り、それが極限までいくと、「お金を出して買えばいい」ということになるんです。

——手っ取り早いですからね。

内山さん 「他者との関係がな」と成り立たない欲望は、面倒臭くて、わずらわしい」となりますと、欲望の中身がものすごく変わるのです。他者との関係とともに



「生きる」という部分を回復させなくては「心の空洞化」の解決はないと思います。他者と関係を持つことをわずらわしくしないのが、人間の腕だったのです。その腕をどう回復するかが大事な課題です。

——少子化や帰農、大卒の無業者増などの社会現象は「人間と人間」「自然と人間」の新しい関係を模索するあらわれとお考えですか。新たな思想・行動を生み出す条件はあるのでしょうか。

内山さん 物事を考えていく場合、ある程度長期にわたって継承されてきたものは信用できると思うんです。日本での米づくりは、二千年の間、延々とやってきました。また、自然をうまく使い、壊さないで生活する生き方は人類の誕生以来続いてきたことです。

この二つは、信用できるし今後も継承すべきものです。ところが、企業は百年ほどの歴史しかありません。国家を念頭において人々が日本人であることを意識して生きるようになったのは、明治二十年ごろからです。

——それまでは「藩」でしたね。

内山さん 企業や国家は、人間史からみると、いつ無くなっても

不思議ではないし、逆にこれからは続くかもしれないと考えていいでしょう。人間は、自然と百万年近くうまく付き合ってきたのです。それが、戦後五十数年というわずかな間で、壊してしまおうとしてきたのです。ですから、いろいろなりアクションが起きてもおかしくありません。また「自分たちの生活に必要なものを自分たちで作っていく腕」にも約百万年の歴史があるんです。それを全部消費に切り替えていったのも、ここ三、四十年のことです。少なくとも数百年以上にわたって成り立ってきたものは、簡単に捨てないほうがいいと思います。



——いいと思えるのです。
——目から鱗うろこが落ちたような気がします。

内山さん 長い歴史を持つものは、バックに全部「腕」や「技術」があるんです。暮らしていく技術、



人間関係をうまくしていく技術、そういう技術を持っていることで、生きていくことに意味が与えられたのだと思います。「生きていく」という意味は、単なる精神の問題ではないのです。体とともに、精神的にも分かってくるものです。自然を利用する腕を持つことによつて、自然が分かる精神になる。こういう生きていく感覚が生命感を高めるのだと思います。

——山河を壊し、土や水を汚す国には、生命感が高まりませんね。

内山さん 生命感が、生きていく技を持ち、さまざまなものを見ていく力を育てます。人はそれぞれ違った生き方をするものです。でも、ちよつと別の目でみると、

自然と共存1100万年 自然破壊11戦後50数年

●この人類史から、なにを学ぶべきか

「だれもが無事な一生を終えた」という共通の感覚がありました。そういうバランス感覚の中で「人間の生きる世界をみていた」のが、昔の日本の文化のような気がします。

——かつての日本には「だれもが無事に一生を終えた」と言い切れるすばらしい文化があったと。

内山さん この考え方は、世界の共通の普遍的な考え方ではないんです。死後も差別のある宗教が多くなか、日本の伝統的な死生観は「死んだ後はみな同じ」という感覚です。これは人間だけでなく、木や草、虫もそれぞれが無事な一生を終えたと考え「生きているものはみな平等」と感じる世界です。日本には、そういう文化的死生観があったのです。

——なにかほのほのとします。

内山さん 戦後、それを壊して、無事な一生を終えたただでは駄目で、その先を目指して走る生き方をしてきたわけです。

——その線上に「右肩上がり経

済」があり、平成不況が……。

内山さん 現実問題として、もう経済成長は不可能です。いままで右肩上がり経済できたのは、経済力を一部先進国が独占できたからです。たとえば、中国社会が日本と同じマイカー所有率になると、世界の石油の全部を中国が使うことになります。また、トイレットパーパーを中国国民が、日本人一人当たりの使用量と同じ量を使うと、伐採した木の総量全部を中国人が使う計算になります。全世界が一緒に右肩上がり経済になるのは不可能で、ある国が右肩上がりになるためには、他の国の経済を落とさなければならぬ、非常に野蛮な世界になりかねません。このことから「自然をうまく使い、生活する生き方」の技術を回復させることが必要です。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 園

カメラ／山本 綾子

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ
学び
活動する
地域のつながり



地縁と遊び大切に 助け合い育ち合う

母と子が楽しく集う

子育てサークル「てくのぼう」(福島裕子代表ら四十七組)は、転勤族などが引越してきて「友達ができるか心配」という母親の不安を解消してくれるグループ。毎週木曜の午前、麻生区の高石団地集会所で、乳幼児と母親たちが季節の行事や野外遊びを楽しみな

てくのぼう(麻生区)

がら、連帯を深めている。「てくのぼう」の運営は、会員四人が交替で「当番」になり、お金をかけずに楽しく遊べる「子どもが主役」のアイデアを出し合う。遊び中心のメニューに加え、育児相談会や救急法講習など、親の学習機会もつくっている。

この日は誕生会と工作。母と子が車座になり、まよるくなる。その真ん中に誕生日を迎えた子供四人が立ち、祝福の手作りペンダントを首に掛けてもらった。母親たちが一斉に温かい拍手を送る。

ペンダントは、花形の台紙にピンクやブルーのリボンをあしらった手作り。そのペンダントに張ってある写真やメッセージを得意そうに見せる男の子。満面に笑みを浮かべ母親の元かけよる女の子。その周りで「すてきなプレゼントね」「(年齢は)いくつになったの」と声をかける会員。全員で「ハッピー バースデー」を合唱すると、これまでの光景を見ていた幼児が歓声をあげ、元気に走り回る。

その後、お当番の森崎由布子さん(34)が「みなさんが持ってきたプラスチック容器でめがねを作

りますよ。色や形を工夫して」と見本を掲げて説明。「ぼく、大きいのがいい」「それじゃあ、お面になっちゃうよ」と話し合う親子。模様を描く子、母親のそばで出来上がりをじっと待つ子……。

同会の誕生は十年前。子供を公園で遊ばせていた高石団地近くの母親たちが「雨の日に集まれる所を」探し、団地住民の好意で集会所が借りられたことがきっかけ。

熊本から引越してきた稲益久子さん(29)は「入会して友達ができ、いろいろ教えてもらっています」と笑顔で話す。

木村尚子さん(34)は「子供が生まれてから地域を知り、少し世界が広がりました」と楽しそう。

佐藤未来さん(29)は「子供の世話をしたり注意しあったり。みんな育てている感じ。親も育てられています」と明るい。

福島代表は「引越して来る人の多い土地柄。この会を通し地域の情報を伝えたいです」と呼び掛ける。

連絡は ☎(951) 4089の
同代表。(FAXなし)

文 / 小誌・菅原純子
(カメラ / 小誌・井上徳子)

はりきってます グループ紹介

小物、廃品を生き返らせる

岡上デコパージュ研究会(麻生区)

身の回りの小物や廃品に、紙のプリントを転写して、美しい作品に仕上げる「岡上デコパージュ研究会」田澤安子代表(53)の九人は、リサイクル時代の芸術的マジシャン?。会員たちは毎月第一・三木曜、岡上分館に集まって小物をおしゃれに生き返らせる。

この日は、同館サークル祭で販売する作品づくり。市販のせっけんに花や天使の絵をプリントする。城戸洋子さん(54)は包装紙のウサギの絵を切り抜き、表面に転写剤を塗る。日本手工芸指導協会師範の大塚久美子さんが「重ね塗りは一方向ではなく縦横に。布の織り目のように」と声をかける。お湯にしばらく浸し、液剤がしみ込んでいない裏側を指でそっとこする。紙繊維がボロボロとはがれる。薄いシール状になった「ウサギの絵」をせっけん表面に接着させ上薬を塗る。シール面が、液剤で摩擦や水に強い樹脂に変わるの

で、手洗いで使いただけでなく「洋服たんすのしやれた芳香剤になる」と人気。これは、「紙を切り抜いて素材を装飾する」という

デコパージュの基本。

その後、会員が祭り用に持ち寄った作品を並べて品評会を開く。

中川敏子さん(55)は、花びらや葉を張り合わせた凹凸のある絵の額縁を発泡スチロールで作った。

「油絵風の絵とピッタリ。ブロンズの彫刻みたい。姿見の鏡の枠に、このアイデアを拝借しました」と高井裕子さん(39)。その高井さ

発泡スチロール

廃品が高級額縁に 古瓶で電気スタンプに重厚感



なは、花柄の紙で飾った電気スタンプを制作。土台にワインの瓶を使い、重厚感を「演出」。この作品を見ながら田澤代表は「空き瓶を見ると、どう飾れるかって考え、なかなか捨てられないの」と笑う。

「デコパージュ」はフランス語。ヨーロッパの貴婦人が、宮殿装飾を参考に小物やインテリアを作ったのが始まりという。紙を立体的に張り合わせたり木や瓶を飾る技法は、着色を含み五十を超える。プリントを利用する手軽さ、リサイクルとしても注目される。

同会は昭和六十年、同館の成人学校「デコパージュ講座」で発足。大塚さんは「うるしや金箔も同じ技法。気軽に参加を」と話す。

中川さんは「集中する時間が持てるのがいい。アイデアを考えるのが楽しいです」と笑顔。

講師免許を取得した高井さんは、始めたころは子育てで真っ最中だった。「子供と一緒にどうぞといわれて入会。なんでもない廃品が美しい小物になるのが魅力」と話す。

見学歓迎。連絡は☎・FAX (955) 9227の田澤さん。

文／小誌・井上徳子
カメラ／小誌・菅原純子

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

〔点字入門講座◆川崎産学園〕 来年1月18日～2月22日の毎週月曜10時から

全6回。基礎を学び、拡大写本、朗読の理解も深める。2千円。25人(抽選)。

申し込みは1月4日(月)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、☎を記して215-0001麻生区細山1209、同園。☎(954)5011。新百合ヶ丘駅からバス。

〔講習会①入門手話②音声訳ボランティア入門◆市多摩川の里身体障害者福祉会館〕①は来年1月22日～3月26日の毎週金曜13時半から、全10回。受講無料、テキスト代別。40人(抽選)②は来年1月26日～2月23日の毎週火曜13時半から、全5回。無料。25人(抽選)。申し込みは①②とも12月31日(木)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎

FAXと、返信部分にも住所、氏名を記して214-0012多摩区中野島6の13の5、同園。☎(935)1359。

〔①手作り年賀状・多色刷り木版画講座②押し花アートのカリスマスカードを作ろう◆登戸ドレスメーカー学院〕①は12月13日(日)13時から。日本伝統の技法で

手軽な年賀状を作る②は12月15日(火)10時から。花の色をそのまま残す新技法Ⅱ写真Ⅱで作る。いずれも受講料千円、教材費五百円。先着各20人。申し込みは午前中に☎(911)2221



の同院。向ヶ丘遊園駅下車。〔わたしたちのテスト教室〕身近な食品の添加物を考える◆市民局消費者行政

市外局番のないものは044

センター商品テスト室〕12月9日(水)10時から。どちらかを選ぶ。「ハムやソーセージが腐りにくいのは?赤色の正体は?」がテーマ。無料。先着各10人。申し込みは12月1日(火)9時から☎(200)2263

の同センター。〔テクニカルフォーラム〕暮らしと高度情報化技術◆市産業振興会館〕 来年1月29日(金)13時から。「暮らしと高度情報化社会」と題し、技術ジャーナリストの

西村吉雄さんの基調講演ほか。無料。先着3百人。申し込みはがきに住所、氏名、☎を記して210-0855川崎区南渡田町の1、日本鋼管テクノサービス研究支援部・同事務局。☎(322)6078。

〔中級古文書講座〕幕末の外国人遊歩問題と川崎地域◆市公文書館〕 来年1月30日～2月20日の毎週土曜13時半から、全4回。講師は小松修・日本大講師。教

材費のみ3千円。30人(抽選)。申し込みは1月8日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、☎を記して211-0051中原区宮内4の1の1、同園。同講座係。☎(733)3933。

〔①正月とは何か②祈りの造形〕日本仏教美術史入門講座◆日本民家園〕①は来年1月24日～2月14日の毎週日曜、全4回。講師は小島瓊礼・琉球大教授②は来年1月29日～3月26日(2月12日を除く)の毎週金曜、全8回。講師は三輪修三・同園学芸員。いずれも時間は13時から。受講料3千円。先着40人。申し込みは①1月11日(月)②14日(木)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、☎を記して214-0032多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922)2181。

〔きもの着付け◆市中小企業・婦人会館〕 来年1月10日～3月28日の毎週日曜

10時から、全12回。対象は女性。受講料は約1万4千円、入会金約3千2百円。先着30人。申し込みは12月25日(金)8時半から☎(422)2525の同園。

〔委託成人学級〕絵本の楽しみ◆プラザ田島〕 来年1月22日～3月5日の毎週金曜10時から、全7回。絵本の感動させる力、子供への絵本の選び方を探る。対象は川崎区内在住者。無料。先着20人。2歳以上の有料保育あり。申し込みは1月8日(金)10時から☎(233)6361の市教育文化会館。アングスの会企画。

〔①平和、人権尊重学級②家庭教育学級③委託成人学校〕はなしの玉手箱◆多摩市民館〕①は来年1月16日～3月20日の毎週土曜14時から、全10回。子供への性犯罪・買春事件を通して、日本人の人権感覚を考える。無料。先着45人②は来年1月22日～3月19日の毎週金曜10時から、全10回。

学習・文化情報

学習・文化情報

参加したい催しがある

催し



世界の実例から新しい家族関係を模索する。無料。先着30人。保育あり③は来年1月28日(木)親子でおやつ作り▽2月25日(木)親子体操。いずれも10時から。対象は2歳以上の子供と保護者で2回参加できる人。材料費、保険料のみ必要。20組(抽

「痴呆啓発セミナー」も

しあなたが、家族が、痴呆になつたら◆麻生市民館」1月16日(出)13時半。痴呆のうけとめかたについて、狛江市家族会「虹の会」会長の内藤聡さんが話す。無料。先着30人。申し込みは☎・FAX(988) 4427、「はなみずきの会」の柿沼さん。

「冬休みイベント①クリスマスリース作り②キャンドル作り③人形劇④スポーツゲーム⑤ストライクピッチ⑥大コマ作り⑦ゲーム大会⑦映画大会◆東芝科学館」①は12月21日(月)13時半。50人②は12月22日(火)24日(水)13

選)。申し込みは①12月15日(火)②16日(水)10時から☎(935) 3333の同館③12月25日(金)までに往復はがきに保護者の氏名、子供の氏名・生年月日・性別、住所、☎を記し〒214-8570多摩区登戸1-7-5の1、同館・同講座係。

時半。各50人③は12月24日(木)13時半。250人④は12月25日(金)10時と13時半。各30人⑤は来年1月5日(火)10時と13時半。各50人⑥は1月6日(水)7日(木)10時と13時半。ピンゴやカン積み競争。景品あり⑦は1月6日(水)10時と13時半。「忍たま乱太郎」「101匹のわんわん」を上映(2本立て)▽7日(木)10時と13時半。「スワン」を。各250人。料金は①500円②300円、他は無料。申し込みは①②④⑤は事前

に電話(先着順)、他は当日直接。☎(549) 2200。川崎駅からバス。「バザー◆べあみんと」12月5日(土)6日(日)10～15時。日用品、衣類など販売。提供品の受け付けは随時。同

所は知的障害者が自立をめざして活動している。問い合わせは☎(844) 1576。久地駅から徒歩7分。「文化財現地特別公開◆称名寺」12月14日(月)15日(火)10時～15時半。紙本着色「四十七士像」(市重要歴史記念物)と所蔵史料を公開(法事などで公開を中断する場合あり)。無料。当日直接。同所Ⅱ写真Ⅱは鹿島田駅下車徒歩10分。問い合わせは☎(200) 3306の市教委文化財課。

人。☎(287) 6009の川崎港振興協会。「1星を見る夕べ②星の撮影教室③生田緑地ミニ観察会④特別展「下末吉層の化石展◆市青少年科学館」①は12月19日(土)17時半、アンドンメダ銀河・木星を展望。曇り、雨はプラネタリウム②は来年1月22日(金)19時、土星を。雨天中止。持参品あり。小学5年以上(小学生は要保護者)先着10人③は12月13日(日)9時、緑地東口駐車場集合。野鳥を観察。雨天中止▽12月20日(日)10時、同館実験室集合。地層を観察。雨天時は室内▽来年1月10日(日)10時、同館入口集合。シダを観察。小雨決行④は12月3日(木)～来年2月2日(火)9時半～16時45分。化石の展示と説明。いずれも無料。申し込みは①③④当日直接②12月18日(金)9時から☎(922) 4731の同館。

「シネマクラブ◆川崎マリエン」12月20日(日)14時。ディズニーマ映画「アラジン／盗賊王の伝説」(日本語版)。無料。当日先着300



「シネマテークアラヴァインダン映画展◆市民ミュージアム」インドの映画監督ゴーヴィンダン・アラヴァインダンの作品を上映。12月5日(土)①黄昏②オリダット・あるところ③マ6日(日)①追われた人々②黄金のシターマ12日(土)①サーカス②サハジャ、魔法使いのおじいさん(2本立て)▽13日(日)①エスタップ②黄昏▽19日(土)①オリダット・あるところ②追われた人々▽20日(日)①サハジャ、エス

ト」②は12月20日(日)10時から「プーさんと大あらし」▽14時から、アラジン完結編「盗賊王の伝説」。いずれも無料。当日先着各500人。問い合わせは☎(888) 3131の同所。「まゆ玉団子」小正月も

の作り◆日本民家園」来年1月10日(日)10時、北村家で。800円。20人(抽選)。申し込みは12月21日(月)までに、往復はがきに住所、氏名、☎、講座名を記し、〒214-0003多摩区枳形7-1-1の同園。☎(922) 2181。

「シネマテークアラヴァインダン映画展◆市民ミュージアム」インドの映画監督ゴーヴィンダン・アラヴァインダンの作品を上映。12月5日(土)①黄昏②オリダット・あるところ③マ6日(日)①追われた人々②黄金のシターマ12日(土)①サーカス②サハジャ、魔法使いのおじいさん(2本立て)▽13日(日)①エスタップ②黄昏▽19日(土)①オリダット・あるところ②追われた人々▽20日(日)①サハジャ、エス

「シネマテークアラヴァインダン映画展◆市民ミュージアム」インドの映画監督ゴーヴィンダン・アラヴァインダンの作品を上映。12月5日(土)①黄昏②オリダット・あるところ③マ6日(日)①追われた人々②黄金のシターマ12日(土)①サーカス②サハジャ、魔法使いのおじいさん(2本立て)▽13日(日)①エスタップ②黄昏▽19日(土)①オリダット・あるところ②追われた人々▽20日(日)①サハジャ、エス

学習・文化情報

聞きたい音楽がある

タップン(2本立て)②追われた人々。上映開始は①13時半②16時。各回先着270人。料金は一般500円、小中生300円。問い合わせは☎(754)4500の同館。

「募集①識字ボランティア②たま学びのフェア・参加団体③同・個人展示◆多摩市民館」①は来年5月開設の夜間の識字字級のボランティアを。研修は1月8日〜5月7日の毎週金曜19時〜20時半、全15回。対象は市内在住の成人25人(抽選)②は3月5日(金)〜7日(日)のフェア期間中に体験教室・発表会・講演会を企画運営するグループを。対象は同館で活動している団体③は同期間中に「市民ギャラリー」で展示する絵画・彫刻・写真・生け花・焼き物など個人作品を。いずれも無料。申し込みは①12月15日(火)〜18日(金)に電話②12月22日(火)までに所定の申込書を提出③12月16日(水)10時から電話。詳細は☎(03)5333の同館。

「クリスマス・ダンスの

集い◆白幡台小」12月20日(日)15時〜18時。茶菓子代500円。当日直接。問い合わせは☎(977)8600の白幡台こども文化センター。溝ノ口駅南口よりバス。

ステージ

「新春初笑い寄席◆川崎市民プラザ」1月23日(土)18時開演。出演は内海桂子II写真II、林家木久蔵ほか。先着500人。前売り券は大人千800円、子ども500円。☎(888)3131。



「クリスマス親子劇場◆会館とどろき」12月13日(日)10時半と13時半。人形劇団ひとみ座「あまんじやくとうりこひめ」II「ペーチャとあひるの子」の公演。600円。先着各300人。申し込みは☎(733)3333。

「TUCCLクリスマスソ

ンサート◆玉川学園講堂」12月18日(金)18時開演。宮崎朋子のピアノ独奏▽上田浩司他のギター演奏▽佐藤光政他の歌とおしゃべり。幼児〜大学生2千500円、大人3千円。先着400人。申し込みは☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。

「①洗足学園大学プリティッシュ・ブラス演奏会②電子オルガン専攻創設記念〜新作コレクション③シンフォニックウインドオーケストラ特別演奏会◆同園前田ホール」①は12月2日(水)18時半開演。ヴァンデル・ロースト「マーキュリー」他②は12月10日(木)18時半開演。同大講師の上原直「SYMBIOSIS」他③は12月15日(火)18時半開演。V・ジャンニーニ「交響曲第3番」他。いずれも千円。問い合わせは☎(856)2981の同大演奏部。溝ノ口駅下車。

「高津・第九を歌う会」第九コンサート◆洗足学園前田ホール」12月26日(土)19時開演。指揮は秋山和慶。

出演は東京交響楽団、同会II写真、高津・市民合唱団。全席自由3千円。問い合わせは☎(811)8256の高橋さん。溝ノ口駅下車。



「クリスマスコンサート◆東芝科学館」12月19日(土)14時開演。東芝ライイドオンジャズオーケストラがアニメ曲や行進曲を演奏。当日

先着250人。無料。問い合わせは☎(549)2200。川崎駅からバス。

「クリスマスコンサート in KAWASAKI ◆麻生市民館」12月23日(日)15時開演。指揮は佐藤功太郎。出演は神奈川フィルハーモニー管弦楽団、麻生合唱団。チャイコフスキー「くるみ割り人形」他。全席指定3千500円。問い合わせは☎045(331)6699の神奈川フィル・チケットサービス。

「98かわさき市民第九コンサート◆市教育文化会館」12月13日(日)15時半開演。98かわさき市民第九交響楽団と合唱団。指揮は井上喜性。全自由席千円。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

「専修大学フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会◆アミューたちかわ」12月4日(金)19時開演。指揮は堀俊輔。ラフマニノフ「交響曲第2番ホ短調」他。前売り券一般500円。問い合わせは☎(946)4961の成瀬さん。立川駅下車。

学習・文化情報

みたい絵がある

ギャラリー



「会館とどろぎ」12月8

日(火)～22日(火)、教職員写真展▽12月23日(祝)～来年1月8日(金)、同館講座の子ども絵画・書道展。☎(7333)3333。

「ギャラリー幸」12月4日(金)～16日(水)、年末「寿・色紙展」。展示即売。☎(555)8181。川崎駅西口下車。

「中村正義の美術館」12月13日(日)まで中村正義と从展・山下菊二。写真は山下の「うける手」。一般500円、学生300円、小中生200円。☎(953)4936。読売ランド前駅下車。



「スナック喫茶琴」12月30日(水)まで、福土石夫の写真。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「画廊ランプ屋」12月6日(日)まで、陶芸家・こぼやしゆうの手仕事展。陶や木紙で作った作品▽12月10日(木)～25日(金)、7周年記念展。

版画、七宝、アクセサリーの展示即売。☎(945)4416。稲田堤駅下車。「ギャラリー糀」12月10

スポーツ



「健康・体力改善教室◆市体育館」12月18日～来年3月19日の毎週金曜14時半全11回。15歳以上40人。4千円。申し込みは12月11日(金)14時に同館で抽選。☎(200)6255。

「寒げいこ◆石川記念武道館」来年1月6日(水)7日(木)～20時半10日(日)10～15時半。剣道・柔道・空手道・合気道・なぎなた・少林寺拳法を時間別にけいこ。小学生以上。剣道百人。その他各50人。無料。申し込

日(木)～12日(土)、京鹿の子紋り展。職人40人が10の技法を使い1年がかりで制作した「竹取物語」の絵本20ペーシジを展示。実演あり。☎(812)6090。溝ノ口駅下車。

「市民ミュージアム」12月20日(日)まで、ミュージアムコレクション展Ⅱ▽博物館の眼。下原遺跡の土偶他。一般300円、小～大学生500円。☎(754)4500。

みは12月6日(日)10時に同館で抽選▽1月10日(日)12時から鏡びらき。無料。☎(544)0493。

「①親子体力づくり②フットサル教室◆とどろぎアリーナ」①は来年1月12日～3月16日の毎週火曜10時、全10回。3・4歳児とその保護者30組。3千円②は来

年1月20日～3月31日の毎週水曜15時、全10回。対象は小学3～6年生。3・4年生30人、5・6年生30人。千500円。申し込みは①12月15日(火)10時②12月16日(水)15時に同館で抽選。☎(798)5000。

「①はつらつ健康体操②ジョギング教室◆とどろぎアリーナ」①は来年1月21日～3月25日の毎週木曜13時半、全10回。60歳以上40人。4千円②は来年1月16日～3月20日の毎週土曜14時、全10回。15歳以上(中学生は除く)50人。4千円、教材費4500円。申し込みは①12月17日(水)13時②12月19日(土)14時に同館で抽選。☎(798)5000。

「①パドルテニス教室②こどもソフトバレーボール教室◆高津スポーツセンター」

①は来年1月8日～3月19日の毎週金曜18時半、全10回。15歳以上40人。4千円②は来年1月9日～3月20日の毎週土曜14時半、全10回。小学4～6年生50人。600円。申し込みは①12月11日(金)18時②12月5日(土)14時半に同館で抽選。☎(813)6531。

「社交ダンス教室①初級②中級◆川崎市民プラザ」来年1月9日～3月20日の毎週土曜①10時55分～12時40分②9時～10時45分、各全10回。受講料各1万2千円。男女各40人(先着順)。申し込みは12月5日(土)から受講料を添え来館。☎(888)3131。

「女性硬式テニス教室①初級②中級◆川崎市民プラザ」来年1月11日～3月15日の毎週月曜①10～12時②

お知らせ

発行日は**1月8日(金)**になります

1月は一般的に社会が始動するのが遅いことと、年末は多忙で、「新春号」の「店頭」配布は事実上「七草」を過ぎるためです。

13〜15時、各全10回。受講料各1万2千円。①30人②20人(抽選)。申し込みは12月19日(土)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、コースを記し〒213-0014高津区新作1の19の1、同所同教室係。☎(888)3131。

ミニニュース

アイデアいっぱい 便利な介護服の本

体の不自由な人たちの着やすい衣服を作りつづけている「ポランティアサークル系の詩」(栗田佐穂子代表)が、この秋、初めての作品集「アイデアいっぱい 簡単・便利な介護服」(ブティック社)を刊行した。この本には、入院・療養中に便利な寝まきやガウン、既製品にファスナーを付けて着脱しやすくしたスポン、中古セーターから作った小物など、45点の作品が収められている。手持ちの服や既製品にちょっと手を加えるだけで、

障害者や高齢者が着やすくなるヒントが満載。また、作り方のほかに、洋裁の基礎知識、使用小物と用具の解説もあり、初心者にもわかりやすい。

栗田代表は「作り方が分からないときはお問い合わせ下さい。次のステップに向かって、少しずつ研究を進めていきたい」と話す。A4変形判98ページ、実物大型紙付き9百円(税別)。問い合わせは☎(9-1)2221の登戸ドレスメーカー学院内、栗田代表(S)。

底辺を直視の卒映

しんゆり映画祭

第4回しんゆり映画祭が10月上旬、麻生区の「ワナー・マイカル・シネマズ 新百合ヶ丘」などであり、今村昌平監督作品「カンゾー先生」が先行上映された。これは「芸術のまちづくり」構想の一環として、市民プロデューサーが企画、副音声ガイドがついた作品も2つに増え、ワインを楽しむながらのトークなど、充実したプログラムだった。

話題となったのが家族ドキュメンタリー「ファザーレスく父なき時代」。97年度日本映画学校卒業製作の劇場版で、茂野良弥監督も主人公の青年の村石雅也さんも同期生。村石は、夜の町をさまよひ、ナイフで体を傷つけ、同性愛に悩む生活を送る。カメラは主人公が「家族を見つめ直そう」と自分を捨てた父、夫に捨てられ多くの愛を求めた母、差別に抗う義父と向き合い、人間性を取り戻す姿を追う。

同校の佐藤忠男校長は「カメラには、普段話せないことを思いがけず話させる力がある」と話した。茂野監督は、他人の家族のプライベートに踏み込み、製作を続けた苦悩を吐露。「友人の家族を傷つけ撮った。卒業製作だけでは、自分が許せなかった」と劇場版にしたいきざしを話した。同作品は、世界の学生映画祭で多くの賞を受賞した。同校所在地名にちなみ「万福寺シネマ」として来年6月、劇場公開を予定している(一)。

編集後記

恥を忘れた人々

この一年、モチーフに川崎の自然を選び、表紙絵を制作してくださった清水幹子さんの最終回の作品は裸婦▼なぜ、裸婦なのかは「もくじ」上の清水さんの寄稿をお読みください▼ところで、巷の又道論争?の多くは芸能人の写真集▼芸術性より、新人やカムバックを狙うベテランを売り込むための話題づくり▼昼のテレビ番組がその露出度をめぐってキッカー▼「いまの日本社会は大人も子供も尊敬、感謝の念を忘れて」と、十一月号「いまを話す」で中教審専門委員の佐保田亘正さん▼「商品」になると人間、恥まで忘れる▼今号の「いまを話す」は、人間の「労働」「稼ぎ」「仕事」の相違について▼内山節さんの話は実践的で、本来哲学とは、そういうものなのです▼「かわさき市民アカデミー」の講師のとき、多数の「内山節ファン」ができました▼市民が経験したような事実を淡々と話し、「内山流味付け」(分析)をして、受講者の関心を高めました▼戦後の一時期、他国の偉人の言葉をちりばめ、脚光を浴びた知識人も少なくありませんが、この人たちとは大違いです▼いまも「言葉のお遊び」の上手な知識人がテレビ出演▼バブルのときは、マネージャーと称して株投機をあたり、アメリカ経済が好調のころは「アメリカの証券投資の大半は個人。日本人もそろそろ株アレルギーから脱却を」ですって▼佐保田、内山両氏の話からも、教育の荒廃やモラルの欠如は、さまざまな事柄が絡み合い、長い年月を経て「培養」されてきたことは明らかです▼その責任の一端は、誤った情報を流し続けた一部のマスコミや文化人、学識経験者にあることは当然です▼その事実には頬被りし、いままも活躍の方、反論をお寄せください(田)。

発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
電話 044(952)5000代

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
FAX 044(952)1350 編集人・田中 園